

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立三根中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	① 学びに意義を持たせ、主体的で深い学びの確立と学力の向上を図る。 ② 生徒個々の特性を考慮した関わり具現化、及び社会性の向上を図る。 ③ 新しい学校の在り方につながる、教育実践の進化・深化を図る。
------------------	---

2 学校教育目標	三根中学校に誇りをもつ生徒を育てる ～自主、自律、寛容の態度形成を通して～
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	① 校内研究と各種調査の分析による、主体的な学びに向けた指導方法の工夫改善を継続させる。 ② 生徒個々の特性や状態把握に努め、いじめの未然防止・教育相談と特別支援教育を充実させる。 ③ 全人的な生徒の成長深化を目指したキャリア形成に係る教育実践を充実させる。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)					
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに提示する、学習目標や指導事項に係る成果指標を達成した教師80%以上(3及び4の評価)	・各種調査の分析を基に学力向上を目指した取り組みを実施 ・校内研究を軸に、成果指標を共有し授業づくりに随時反映	A	・「主体的学びのための学習目標・過程の提示」実施率89%(4及び3の評価) ・しっかりとした共通認識のもとで、学習目標(学習事項)や学習過程が保障できていたとは言えない。	A	・授業を参観した範囲では、丁寧に学習目標が提示され、生徒は学習の到達目標をもち学習に取り組んでいた。 ・生徒が主体的に学べるよう手立てを講じて欲しい。
	○特別支援教育の充実	○切れ目のない支援体制を構築(教師の肯定的評価70%以上)	・教員ひとりひとりが支援計画に基づいた支援を実施 ・特別支援教育委員会で月単位の支援の検証と方法修正を図る	A	・「個別の支援計画、情報共有、特別支援教育の実践」実施率73%(4及び3の評価) ・個別の教育課程の内容についての適正が保たれているのか、進路実現につながる支援計画となっていたのか、などを検証し、次年度に引き継ぐ。	A	・どこまで支援していくか、ということが難しい。個別に支援計画、カリキュラムがあるため、共通理解や実践を図るうえで重要な取り組みになる。 ・学校評価アンケートの回答の意識にも温度差など幅があるのではないかと。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳」に対する生徒の肯定的評価4の段階の割合の向上(50%以上)	・道徳の授業、全教育活動での道徳性の追究、実践促進 ・担任、副担任による道徳の授業の充実	A	・「道徳の時間にじっくり考えた」と回答した生徒98%、「道徳の授業は役に立っていると思う」と回答した生徒94%(それぞれ4及び3の評価)であった。	A	・生徒の4の段階の回答が多いのは本音と少し異なるかもしれない。「役に立っている」の3の評価の割合が高いことが実態に近いのではないかと。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○2回実施するQ-U結果において、2回目まで不満足群、非承認群を減少	・効果的な生活アンケートの実施(県調査を含め11回) ・生徒指導協議会等にて状況確認と対応協議	B	・QU検査結果では、不満・非承認群に顕著な効果は見られない。 ・問題行動等の内容や対応について、情報共有が不十分な事案が複数あった。改善を図りたい。	B	・いじめの定義により、細かい生徒の状況を見取っている。アンケートでのいじめ申し出は難しいと思うが、回答方法や質問項目を答えやすいものにしてほしい。 ・訴えに対する対応を丁寧に行ってほしい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上	・体験活動を取り入れた進路指導、進路学習の推進 ・自己肯定感を高める、実感のある承認の場面を取り入れた行事の実践	A	・「将来の夢や目標を持っている」と思っている生徒の割合79%(4及び3の評価)だった。 ・「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と思っている生徒88%(4及び3の評価)だった。	A	・学年が上がるにつれ、夢や目標をもつ生徒が増えていく。 ・職業体験など、学校は取り組みを充実させている。 ・進路の希望は変化するものであり、主体的に生きていくための基盤を持たせたい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上	・食に関するアンケートを実施し、実態や経年変化による課題分析 ・食生活を改善する保健学習、食に関する学習、道徳の学習の実施	A	・「頻りに朝食をとらないことがある」「まったく朝食をとらない」生徒が全体の14%(2月現在)であった。 ・「栄養バランスに気を付けている」生徒は86%であり、朝食をとる生徒と概ね重複していた。	A	・家庭の状況による。食べないことが習慣化している家庭もある。 ・朝食だけではなく、食事の内容なども課題であり、子どもたちが自分で食事を準備することができていくように資質・能力を高めさせたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外勤務状況の客観的把握と課題改善 ・業務の合理化、効率化を推進	B	・1月末までの平均月別時間外業務時間は、30.0時間であった。月当たり45時間超の延べ月数は47月であり、6カ月を超える職員がいた。職員個々の業務に対する価値基準は、合理性重視に変化してきているようである。 ・職責及び違法についての理解・周知、遵守を図る。	B	・47月の超過勤務があることについては、改善できるとよい。 ・部活動では休養日の設定ができていない。 ・部活動改革の進捗状況を見守る。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	重点取組内容	成果指標(数値目標)					
○人格・キャリア形成	◎三根中学校に誇りをもつ生徒の育成	○三根中所属への肯定的評価の向上(意識調査肯定的評価4段階評価の4の割合を50%以上)	・自立を促す出番、役割、承認場面と客観的な振り返りの場面設定 ・各種実践に対する生徒評価の還元	A	・「三根中に入學してよかった」と4段階4で回答した生徒の割合62%、「入學させてよかった」と4段階4で回答した保護者の割合31%であった。 ・3年生の保護者は肯定的評価が高い。保護者への情報提供や説明のあり方について改善を図る。	A	・学年が上がるにつれ学校満足度が高くなっていくのは理解できる。相対的に満足度が高い。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	① 主体的で深い学びを促す授業設計、目標提示、学習のふりかえりをより丁寧に行う。 ② より実践的な道徳教育活動の展開に取り組み、いじめや問題行動の協働的な解決ができる学校教育環境を構築する。 ③ 既存の学校システムや前例踏襲に拘らない、具体的教育方針を共有し生徒や職員が個々の能力を発揮する。
--------------------	--